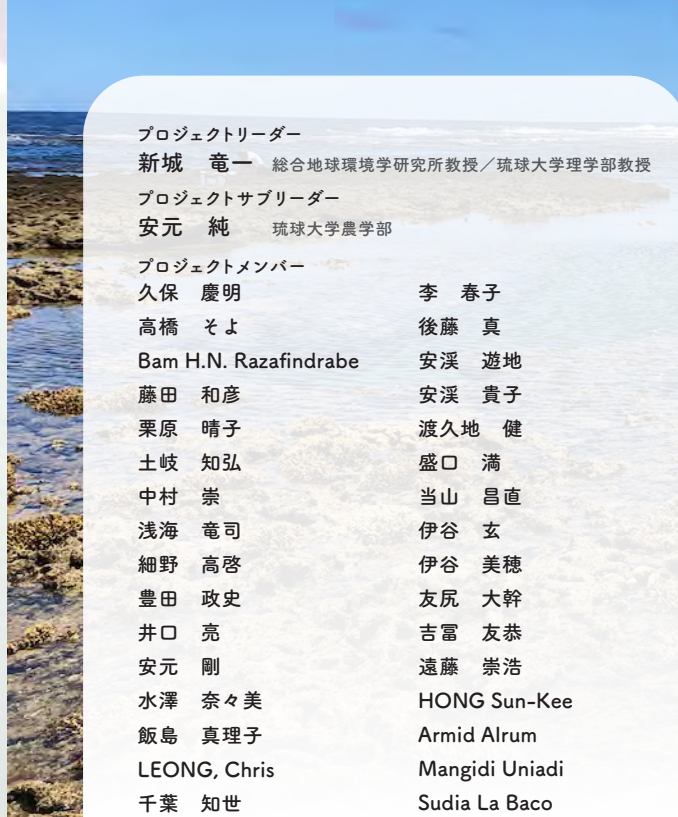




本プロジェクトでは、琉球弧や西太平洋の熱帯・亜熱帯に位置するサンゴ礁島嶼系において、陸と海の水循環を介したつながりや、暮らしの中で育まれてきた生物と文化のつながりや多様性、多様な資源のガバナンスの規範・組織・制度の変遷や重層性を解明します。

得られた成果のつながりを可視化し、陸と海をつなぐ水循環を軸としたマルチリソースの順応的ガバナンスの強化をめざします。



プロジェクトリーダー
新城 竜一 総合地球環境学研究所教授／琉球大学理学部教授
 プロジェクトサブリーダー
安元 純 琉球大学農学部

プロジェクトメンバー

久保 慶明	李 春子
高橋 そよ	後藤 真
Bam H.N. Razafindrabe	安溪 遊地
藤田 和彦	安溪 貴子
栗原 晴子	渡久地 健
土岐 知弘	盛口 満
中村 崇	当山 昌直
浅海 竜司	伊谷 玄
細野 高啓	伊谷 美穂
豊田 政史	友尻 大幹
井口 亮	吉富 友恭
安元 剛	遠藤 崇浩
水澤 奈々美	HONG Sun-Kee
飯島 真理子	Armud Alrum
LEONG, Chris	Mangidi Uniadi
千葉 知世	Sudia La Baco
大野 智彦	Oetama Dedy
田中 俊徳	Lawelle Sjamsu Alam
新保 輝幸	Takwir Amadhan
松野 奈都子	Barata La Ode Ahmad
中本 敦	Manan Abdul
呉屋 淳子	Tarima la
向井 大策	



詳細は
 LINKAGEプロジェクト
 ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/8/>



総合地球環境学研究所 実践プロジェクト

陸と海をつなぐ水循環を 軸としたマルチリソースの 順応的ガバナンス： サンゴ礁島嶼系での展開

(略称：LINKAGEプロジェクト)

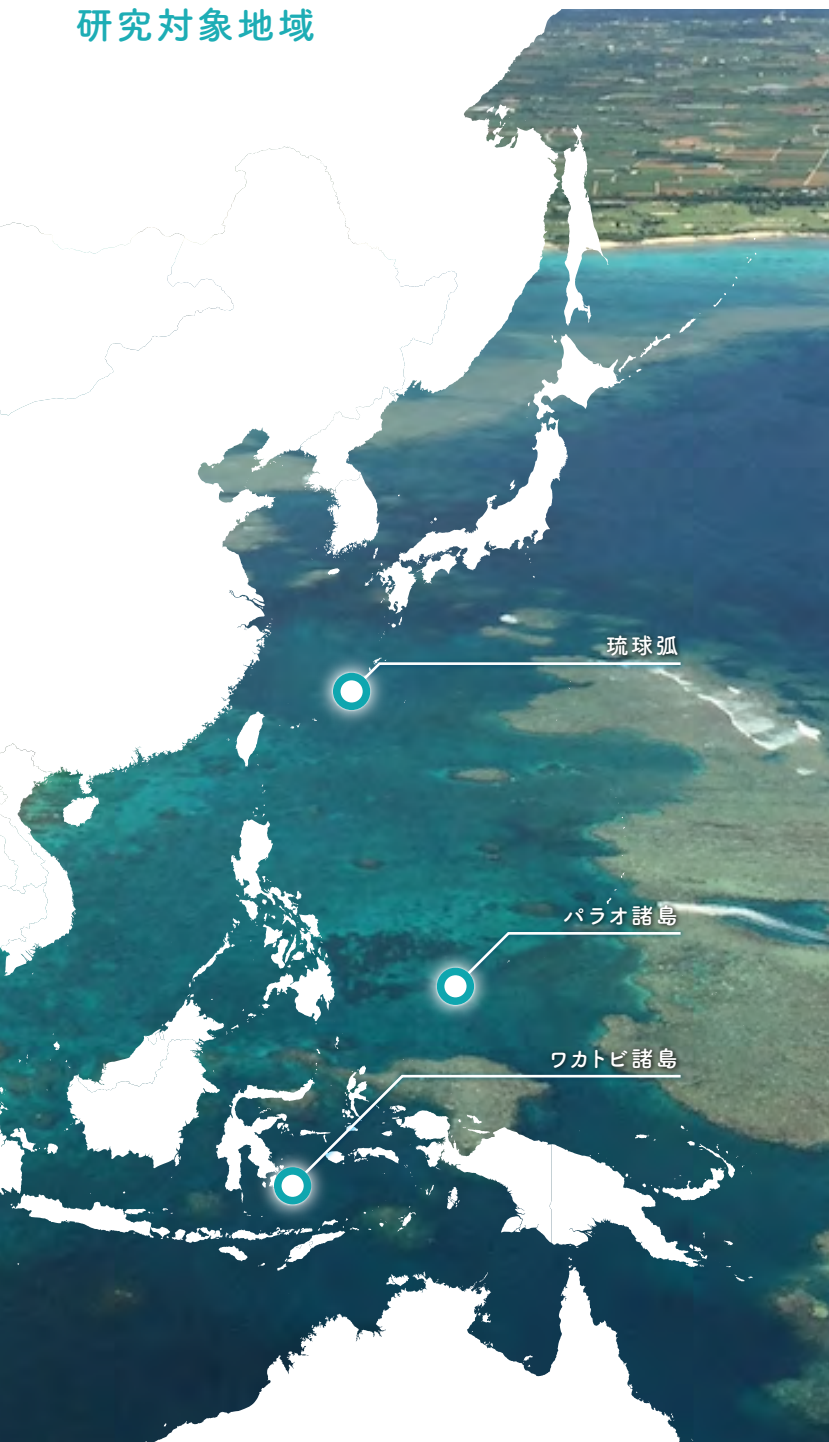
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
 Tel 075-707-2373 Fax 075-707-2508
 Email rihn.linkage@chikyu.ac.jp



Research Institute for
Humanity and Nature
大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所



研究対象地域

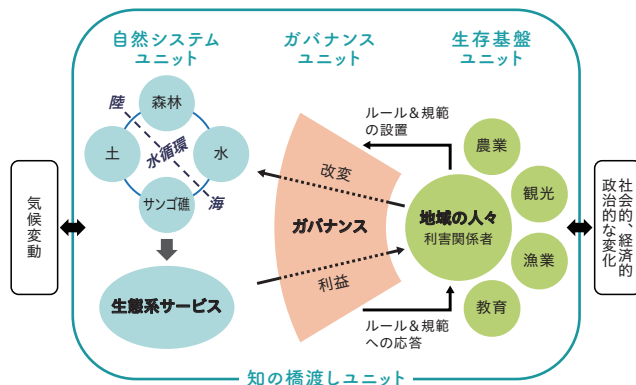


なぜこの研究をするのか

豊かなサンゴ礁の海を育む島々は、熱帯～亜熱帯にかけて広く分布しています。サンゴ礁島嶼では水は大変貴重で、そこで暮らす人びとは昔から地下水や湧き水といった限られた水資源を工夫しながら大切に利用してきました。水は資源として人びとの暮らしに密接に関連する一方で、その形態を変化させながら循環しており、陸と海をつなぐ媒体としての役割も担っています。島嶼では陸と海をつなぐ水循環のスケールが小さく、私たちの生活の糧となる海洋資源を育むサンゴ礁生態系もこの水循環を介して陸と密接につながっています。このようなサンゴ礁島嶼系では、地域固有の生物や文化の多様性も育まれてきました。

しかし、近年、土地利用や社会経済の変化の影響を受けて、島嶼の水資源の枯渇や水質の悪化が生じており、水循環を介してサンゴ礁生態系の劣化を引き起こす要因にもなっています。さらに、気候変動に伴う降水パターンの変化や海面上昇、海洋酸性化や海水温の上昇も、状況の悪化に拍車をかけています。

サンゴ礁島嶼に住む人びとが、脆弱性の高い水資源や水産資源、森林資源などの島嶼の限られた自然資源（マルチリソース）を持続的に利用していくためには、気候変動や社会経済の変化に対応可能な順応的ガバナンスの強化が必要です。



これからやりたいこと

琉球弧の島々やインドネシア、パラオなどの西太平洋の熱帯・亜熱帯にあるサンゴ礁島嶼系において、人びとが水資源や水産資源、森林資源などの島嶼の限られたマルチリソースを持続的に利用していくため、

- 1) 各種の安定同位体、環境トレーサー、メタゲノム解析によって陸と海の水循環を介したつながりを明らかにし、気候変動や社会経済の変化によるマルチリソースの応答を把握・予測します。

▶ 自然システムユニット

次に

- 2) 歴史生態学的アプローチにより、島の暮らしの中で育まれてきた生物と文化のつながりや多様性を明らかにし、資源の限られた島嶼コミュニティにおける生存基盤の維持機構を解明します。

▶ 生存基盤ユニット

さらに

- 3) 行動科学やマルチレベルの制度分析により、順応的ガバナンスの制度・組織・意識の変遷や重層性を明らかにします。

▶ ガバナンスユニット

また、

- 4) 順応的ガバナンスでは、知識（科学的、地域的、政策的）の橋渡しを重要な構成要素ととらえ、それらの関連性を可視化することで新たな価値観の創造や科学知と地域知の統合を試みます。

▶ 知の橋渡しユニット

これらの成果により、サンゴ礁島嶼系において気候変動や社会経済の変化に対応したレジリエントな自然共生社会の実現に貢献したいと考えています。

